

「上位 20 位東京大学、京都大学のみ 英教育誌のアジア大学ランキング」

英国の教育誌「タイムズ・ハイヤー・エデュケーション」は6月3日、中東を含むアジア地区の大学ランキングを発表した。1位は前年に続き清華大学で2位にも昨年の5位から順位を上げた北京大学が入り1, 2位を中国が占めた。日本はランキングに入った489の大学のうち110大学と最も多く、「日本はリーダーであり続けている」と同誌に評価され面目を保った。しかし、上位20位に入ったのは7位の東京大学と12位の京都大学だけ。上位20位に7大学が入った中国だけでなく、5大学の韓国や4大学の香港に比べても劣勢が目立つ。

2位に浮上した北京大学は研究環境と企業からの収入に対し高い評価を得た。2016年から2018年にかけて3年連続1位だったシンガポール国立大学は、前年の2位からさらに一つ順位を落とし3位。4位、5位は、香港大学、香港科技大学の香港勢が続き、以下6位にシンガポールの南洋理工大学、7位に前年から順位を一つ上げた東京大学、8位に香港中文大学、9位にソウル大学と常連の大学が並ぶ。中国科学技術大学が初めて10位に浮上したのが目立つ。

「アジア大学ランキング 2020」トップ 50

(タイムズ・ハイヤー・エデュケーション「Asia University Rankings2020」から作成)				
アジア 順位	前年 順位	前々年 順位	大学名	国・地域
1	1	2	清華大学	中国
2	5	3	北京大学	中国
3	2	1	シンガポール国立大学	シンガポール
4	4	4	香港大学	香港
5	3	5	香港科技大学	香港
6	6	5	南洋理工大学	シンガポール
7	8	8	東京大学	日本
8	7	7	香港中文大学	香港
9	9	9	ソウル大学	韓国
10	12	15	中国科学技術大学	中国

10	10	13	成均館大学	韓国
12	11	11	京都大学	日本
13	13	10	K A I S T	韓国
13	14	18	浙江大学	中国
15	16	12	浦項工科大学	韓国
16	15	14	香港城市大学	香港
17	17	16	復旦大学	中国
18	18	17	南京大学	中国
19	24	20	上海交通大学	中国
20	19	24	高麗大学	韓国
21	25	26	国立台湾大学	台湾
22	21	20	延世大学	韓国
23	22	22	蔚山科学技術大学	韓国
24	19	19	香港理工大學	香港
25	26	25	テルアビブ大学	イスラエル
26	23	23	キング・アブドゥルアズィーズ 大学	サウジアラビア
27	27	27	エルサレム・ヘブライ大学	イスラエル
28	35	68	アルファイサル大学	サウジアラビア
29	31	40	慶熙大学	韓国
30	31	30	東北大学	日本
31	27	32	カリファ大学	アラブ首長国連邦
32	—	—	マカオ科学技術大学	マカオ
33	41	—	南方科技大学	中国
34	47	57	華中科技大学	中国
35	64	83	台北医科大学	台湾
36	29	29	インド理科大学院	インド
37	42	47	マカオ大学	マカオ
38	33	38	漢陽大学	韓国
38	38	43	中山大学	中国
40	49	71	アラブ首長国連邦大学	アラブ首長国連邦
41	34	35	名古屋大学	日本
42	30	33	東京工業大学	日本
43	38	46	マラヤ大学	マレーシア
44	37	45	武漢大学	中国

45	—	—	北京師範大学	中国
46	59	36	国立清華大学	台湾
47	—	—	インド工科大学ロパー	インド
48	42	37	バボルノシルバニ工科大学	イラン
49	36		サバンジュ大学	トルコ
50	50	53	同済大学	中国

今回のランキングは、417 大学だった前年より 72 大学増えている。新たにランク入りした大学は約 80。このうち 57 位と日本の大学の中で 7 番目に高い評価を得た産業医科大学をはじめ、32 位のマカオ科学技術大学、45 位の北京師範大学、47 位のインド工科大学ロパー、60 位のブルネイ・ダルサラーム大学（ブルネイ）の 5 大学についてそれぞれ評価を比較した図が示されている。

教育、研究、論文引用の影響度、国際性、企業からの収入という五つの評価指標のうち、マカオ科学技術大学とブルネイ・ダルサラーム大学は、論文引用の影響度と国際性が高い評価を得ている。産業医科大学とインド工科大学ロパー校は論文引用の影響度が高く評価されている。他方、これら 4 大学はその他の分野で改善の余地があるとされた。北京師範大学は、五つの評価指標すべてで良好な評価を得た、とされている。

「タイムズ・ハイヤー・エデュケーション」は、これら 5 大学の特徴からもみられるアジア地域の大学が持つ長所や短所の多様性を肯定的に捉えている。現在、新型コロナウイルス感染拡大で、世界中の教育と研究に動揺がみられる。新型コロナの結果としてグローバルな学生の流れが変化することで、東アジアが高等教育の中心地として浮上する可能性がある。こうした予測があることを紹介している。

世界の中でアジア地域の大学の評価が高まり続けている一方、この 1 年間に香港とインドで学生たちの激しい抗議活動が起きていることも注目している。東アジアのいくつかの国が直面する人口問題にも触れ、大学が自ら対応せざるを得ないこれら多種多様な問題の解決策もまた多種多様であるとの見方も示した。

アジア大学ランキングで用いられている教育、研究、論文引用の影響度、国際性、企業からの収入という五つの評価指標による評価法は、「タイムズ・ハイヤー・エデュケーション」が毎年、公表している世界大学ランキングと骨格は同じ。五つの評価指標をそれぞれ

れさらに細分化した合計 13 項目について点数を付け、合計している。例えば教育については、世界の著名な研究者 1 万人以上から得た大学に対する評価のほか、教員数に対する学部学生数の割合、学士数に対する博士授与数の割合、教員数に対する博士授与数の割合など計 5 項目が評価される。

五つの評価指標のうち、特に重視されているのは教育、研究、論文引用の影響度。世界大学ランキングではそれぞれ 30% という高い配点が割り振られている。アジア大学ランキングの評価方法がわずかに違うのは、教育だけが 25% に減らされ、その分、2.5% の配分比率だった「企業からの収入」が 7.5% に引き上げられていることだ。教育で減らされた 5% 分は、世界の著名な研究者 1 万人以上から得た大学に対する評価（15% から 10% に）である。こうした調整についてタイムズ・ハイヤー・エデュケーションは「アジアの大学の優先度を反映した」と説明している。アジアの大学は、企業からの収入を他地域の大学より重視していることを考慮したといえる。

こうした評価手法の調整によって、すでに公表済みの「世界大学ランキング 2020」
https://www.timeshighereducation.com/world-university-rankings/2020/world-ranking#!/page/0/length/25/locations/CN/sort_by/rank/sort_order/asc/cols/stats
の評価結果との違いもみられる。アジア大学ランキングの上位 10 位だけでも、順位の入替えが起きている。1~4 位の清華大学、北京大学、シンガポール国立大学、香港大学は世界大学ランキングの評価順番と変わらない。しかし、5 位の香港科技大学と 6 位の南洋理工科大学は世界大学ランキングでのアジア勢の評価順位に比べ、それぞれ一つ順位が上がっている。10 位の中国科学技術大学も一つ順位を上げている。代わりに世界大学ランキングではアジアで 5 位だった東京大学が 7 位、10 位だった京都大学が 12 位にそれぞれ順位を下げた。

日文 小岩井忠道（JST 客観日本編集部）

関連サイト

タイムズ・ハイヤー・エデュケーション「アジア大学ランキング 2020」

<https://www.timeshighereducation.com/news/asia-university-rankings-2020-results-announced>

タイムズ・ハイヤー・エデュケーション「世界大学ランキング 2020」

https://www.timeshighereducation.com/world-university-rankings/2020/world-ranking#!/page/0/length/25/sort_by/rank/sort_order/asc/cols/stats